

特定非営利活動法人

# 明るいシステム倶楽部 会報4月号

令和4年4月1日

(2022年)

いつの間にか桜の開花便りを聞く季節になりましたが、毎日落ち着かない心境です。

それもそのはず、国連の安全保障理事会常任理事国であるロシアが、あろうことか隣国のウクライナに攻め入るという世紀の暴挙に出て、はや1か月を越しました。

私達の日本国は、ユーラシア大陸を挟み反対側に位置しますが、とても「対岸の火事」ではない深刻さを感じます。先日、ウクライナ大統領が日本の国会で憲政史上初のオンライン演説をされました。内容に加え話しぶりは、非常に冷静で抑制されたもので、日本国民一人一人が国会議員以上に自分の問題として考えるべき多くの課題を含んでいます。

改めて、ウクライナの惨状を目の当たりにして、日本なりの立場でウクライナや東欧諸国等に対して何ができるのかを共に考えていく必要があります。同時に忘れてはいけないことは、日本として東アジアの秩序の安定にも格段の留意を払う必要があります。

ところで、オミクロン株等の感染対策については、3月21日をもって18の都道府県において蔓延防止等重点措置が解除されました。今後も感染状況等については注視する必要がありますが、一歩ずつ平常の社会活動や経済活動等へシフトしていく必要があります。

なお、当倶楽部は新年度から、2年間を越すコロナ禍の中で種々の反省や検討を含め、当倶楽部としてすべきこと、できることを一つ一つ地道に積み上げていくことに専念したいと考えております。具体的には、会員同士の繋がりや認証企業の交流等をより充実する企画等を立ち上げたいと願っております。

どうぞ、会員の皆様におかれましても、より多くの交流が広がることを祈っております。今後とも一層のご支援の程よろしくお願いいたします。

## < 4月の送付物 >

- ① 日本一明るい経済新聞 4月号
- ② 年会費ご納入のお願い (該当者のみ)
- ③ その他



## < 4月の活動予定 >

4/2(土) 気楽な ZOOM サロン(17)	当倶楽部会員専用の交流の場です。	20:00~21:30
4/20(水) 臨時役員会議(22)	「令和4年度の活動計画」	13:30~14:45
4/20(水) 明るいシステム検討会議(5)	「AKS 認証企業への活動状況」	15:00~16:15
<b><u>AKS 市民大学 (ZOOM 形式)</u></b>		
4/13(水) 菊池教室(15)	「感性を育む和学講座」	20:00~21:30
4/27(水) 柴原・松居教室(8)	「みんなで考える明るい職場」	20:00~21:30
4/30(土) 宮崎教室	「愛と善意のことばにも NG ワードが!!」	20:00~21:30

—— できることをやる。 ——

高村 和義

この2年余り、新型コロナウイルス禍の影響を受け、多くの方々が自らの現状を思い、今後どうすべきかについて真剣に悩んでこられたことでしょう。今回は、コロナ禍が一つの転換点を迎えつつある中、もう一度立ち止まって考えてみることも無駄ではないと思います。

話のスタートに東京五輪・パラから振り返ります。ご承知の如く元々2020年開催予定だったものが、コロナ禍を理由に一年延期され、更に「コロナ禍の五輪・パラ」という位置づけで本当に実施してもよいのか等、数多の議論の末、ほぼ無観客という譲歩案が採用され実施に至りました。

こうした議論の最中、体操の内村航平選手は世間に対して、次のように発信しました。

「できないではなくて、どうしたらできるかを皆で考えてほしい。」

多くのアスリート達を代表した悲痛な叫びでしたが、国民の意見は賛否両論に分かれました。

翻って、内村選手の考え方は、個人や企業等の分野でも同様にとっても大切な気がします。自らが困難を伴う状況に追い込まれた時、そこからどのように解決方法を見出していくか。

重要なことは、起きたことを素直に受け入れ、その上で自分達にできることを積極的に取り組む覚悟が必要なかもしれません。その意味で、以下の考え方と流れ（※1）も役に立ちそうです。

- (1) 「起こりうる最悪の事態とは何か」を自問自答すること。
- (2) やむをえない場合には、最悪の事態を受け入れる覚悟をすること。
- (3) それから落ち着いて最悪の事態を好転させるよう努力すること。



いずれにせよ、個人や企業等が他人や社会のせいにならない当事者意識を強く持つことでしょう。

ご参考までに、コロナ禍を含む企業の取り組み事例を新聞記事から一部ご紹介します。

●視点を変えた積極的な需要喚起

- ・コロナ禍以前、日本の観光業界は海外からのリバウンド客を当てにしてきた面があるが、旅館・ホテル業の星野リゾートは、当時の観光産業消費額の約8割を国内市場が占めることに着目し、観光需要の国内回帰を狙った企業強化を推進する。 (令和元年12月)
- ・飲食業界では、がんこフードサービスが主要店舗での「握りずしの食べ放題」や「飲み放題」の特別セールを開始。何故という第一印象を持つが、政府等からの営業規制が強く、業界全体が委縮してはいけないという業界のリーディングカンパニーの心意気かと思う。 (令和2年3月)

●柔軟な雇用の確保；熟年パワーや高齢者の再雇用は、コロナ禍とは関係なく検討してもよい。

- ・食品メーカーの森下仁丹は、「第4新卒」（※2）を大幅採用。どんなにイキのいい新卒を採用しても、指導役がいなければすぐに辞めてしまう現状から実施に踏み切る。大胆な施策をスピーディーに実行していく上で必然だったとのこと。 (平成30年7月)
- ・家電量販店のノジマは、65歳定年後における雇用延長の上限引き上げ（80歳）を実施する。シニアは貴重な戦力であり、若い従業員の相談にも乗り、また同年代の顧客からは家電の知識・経験で頼りにされるといった魅力が多々あるようだ。 (令和2年7月)

（※1）悩みを解決する魔術的公式；「道は開ける」（D・カーネギー著）より抜粋。

（※2）第4新卒；50代を中心とした経験者を称して、駒村純一社長が名付けられた。